








論文審査の要旨 (課程博士)



生物システム応用科学府長 殿

審査委員 主査 梅澤 春史 

副査 佐藤 令一  

副査 横田 真也  

副査 豊田 剛己  

副査 山田 哲也  

学位申請者	第3 グループ 平成 26 年度入学 学籍番号 15701111 氏名 天谷 杏奈
申請学位	博士 (農学)
論文題目	定量プロテオミクスによる陸上植物のアブシジン酸シグナル伝達ネットワークの大規模解析
論文審査要旨 (600~700 字程度)	
<p>本論文は、植物ホルモンアブシジン酸 (ABA) のシグナル伝達ネットワークを明らかにするために、定量プロテオミクスの手法を用いてアプローチしたものである。シロイヌナズナ種子およびヒメツリガネゴケの二種類の植物材料を用いて、ABA 応答のネットワークを明らかにすると共に、進化学的な支店からの考察も可能としている。</p> <p>本研究では、まずシロイヌナズナの種子を用いた解析が行われた。ABA の作用部位として種子は重要であるため、着眼点としては優れている。結果としては、種子からは十分な数のタンパク質を同定することはできなかったが、これは種子に貯蔵タンパク質等のプロテオーム解析を妨げる要因が存在していたためであり、実験操作の問題ではない。実際、後半のヒメツリガネゴケを用いた解析では、過去の研究と比べても遜色ない数のタンパク質を解析することができている。この解析では、いくつかの興味深いタンパク質を同定すると共に、高等植物との違いなども浮き彫りになっており、当該研究分野に貢献する結果を得たと判断できる。</p> <p>以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士(農学)の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。</p>	
<p>【審査経過】 (通常の審議の場合)</p> <p>平成 30 年 12 月 5 日 平成 30 年 12 月博士後期課程修了に係る学位申請</p> <p>平成 31 年 1 月 9 日 審査委員の選出・指名・付議、論文審査委員の付託 (運営委員会)</p> <p>平成 31 年 1 月 29 日 学位論文発表会</p> <p>平成 31 年 1 月 29 日 グループ会議で論文合格及び最終試験合格を承認</p> <p>平成 31 年 3 月 6 日 学位授与認定・修了認定 (教授会)</p>	